球磨支援通信

熊本県立球磨支援学校
令和５年(２０２３年)７月　第２号

ケース会議とは

「子供の支援について相談したいけど、誰に言えばいいのか分からない」「ケース会議は開かれたけれど、情報交換で終わってしまい、今後の具体的な支援の在り方について検討できなかった」「ケース会議の必要性は感じているけど、計画的な実施ができていない」等々。よりよい支援を考えていきたいと思っていても、担任一人で抱え込んでおられることや、周囲との連携が不十分な現状があるかもしれません。

「ケース会議」という言葉を聞かれたことがあるかと思います。文部科学省「生徒指導提要」によると、『解決すべき問題や課題のある事例（事象）を個別に深く検討することによって、その状況の理解を深め対応策を考える方法』とあります。

つまり「ケース会議」とは、支援を必要としている子供が安心して学校生活、日常生活を送ることができるよう、子供に関わる関係者がチームになって行う作戦会議のようなものと言えます。担任一人では対応することが難しいことも、チームで考え役割分担することで、支援の幅や可能性が広がります。子供や保護者の願いや思いを受け、それらに対する具体的な取組を決定し、実行していくことが「ケース会議」の目的です。

ケース会議が充実することで、子供の見方が変わったり、今後に向けて取り組んでいきたい指導・支援の方法が見つかったりするかもしれません。ぜひ、積極的に実施していただきたいと思います。

ケース会議の流れ

事前

ケース会議は、定期的に行う場合と臨時で行う場合があります。特別支援教育コーディネーターが中心となり、関係者の招集や日程調整を行います。ケース会議の前に、担任や関わりのある教員などが、あらかじめ子供の実態を多方面から十分に把握し、課題となる言動やその背景の分析、考えられる具体的な支援方針をイメージしておくとスムーズです。

ケース会議の進行表　（例）

① 情報の共有
② 課題の明確化
③ 支援の検討
④ 支援の決定
⑤ 役割分担の明確化
⑥ 今後の方向性の確認

このような流れで、子供の理解を深め、目標や役割を明確にしていきましょう

さて、ここまでケース会議の必要性や主な流れについて述べました。様々な書籍や特別支援教育に関するホームページなどにも、活用できる資料やワークシートがたくさん紹介されています。

しかし、ケース会議が十分に活用できていない背景として「事前の準備が大変」「長時間を要したものの、支援目標や手立てが具体的に決まらなかった」などの経験があるからかもしれません。

解決指向型の会議　『ブリーフミーティング』

「ブリーフミーティング」という言葉をご存じでしょうか。リソース（資源）を生かし、今日のゴールに向けて、30分でアプローチしていく会議のことです。現在、このような効率よく効果的な会議方法が、企業や学校で広がっているそうです。

《従来の会議とブリーフミーティングとの違い》

	今までの会議	ブリーフミーティング
時間	長時間かかることも	わずか 30 分
準備	会議までに準備が必要だった	書類作成の必要なし
事例報告	報告にも長時間を要しタイムロス	困っていることを5分間で話す
解決のための対応策	出てこないから絞り込めず 原因追究で終わりがち	たくさん出てくる！だから選べる！ 解　決　志　向
ゴール	抽象的であいまいになりがち 例）クラスになじんで楽しんでほしい 例）笑顔が増えてほしい	具体的で数値化されている 例）算数で 15 分集中して勉強できる 例）週に２回，母親と登校できる
途中参加者への対応	これまでの説明が必要	ホワイトボードを見れば経過が分かる
会議の記録	人によって記録内容が違う	デジカメで撮って同じ記録を共有

ここでいう「解決志向」の解決とは？

「問題解決」ではなく「新しく何かが構築されること」

○「なぜうまくいかないか」→「どうしたらうまくいくか」への考え方の転換
○「どうしたらうまくいくか」を考える前に「うまくいっている状態では、どのようなことが起きているか」について想像してみる

具体的な行動レベル（ゴールイメージ）

① スモールステップであること
② 行動が見えるゴール設定
③ 実現可能で、継続的に取り組める支援方法

原因追究に終始しすぎず、具体的なアイデアを♪

ブリーフミーティングの進行表（例）　　時間設定30分間

① ルールの確認	
② 事例報告（5分）	一番気になることから話す
③ リソース探しのための質問（10分）	具体的な行動レベルでイメージ
④ 今日のゴールの設定	ゴールはスモールステップで
⑤ 解決のための対応策	全員が当事者として積極的に発言
⑥ 決定	具体的な手立てを5W1Hで決める
⑦ 記録（ホワイトボードを撮影）	

毎日お忙しいとは思いますが、子供理解につなげる一歩として、まずは30分間やってみられてはいかがでしょうか。あまり身構えすぎず、できる範囲、集まることができるメンバーからで構いません。回を重ねていくうちにコツをつかみ、先生方のチーム力で解決に向けた具体的な対応や、その子に合った支援方法を考えることができるようになると思います。

ケース会議や支援会議の進め方について、質問や困ったことなどありましたら、電話、FAX でお気軽にお問い合わせください。

【参考資料】
・楽しい学級・学校づくりのために　リーフレット「ラポール」第7号（令和2年2月）
・ケース会議マニュアル　発達教育センター（平成25年3月）

〈お問い合わせ先〉
熊本県立球磨支援学校
教頭：井村
特別支援教育コーディネーター：柴田
TEL：0966-42-3792
FAX：0966-42-6938
E-mail:kuma-s@pref.kumamoto.lg.jp
HP アドレス：http://sh.higo.ed.jp/kuma-s/
球磨支援学校の HP QR コード